

スーダン

—戦争の中で平和を求める声

Zobidah Yousif Elamin

世界の多くの人々にとって、スーダンは紛争や人道的苦難の国として知られるようになってしまいました。しかし、スーダンは今日のニュースで伝えられる悲劇だけではありません。クシュやヌビアの古代文明にまでさかのぼる豊かな歴史を持ち、多様な民族、言語、文化、そして伝統が何世紀にもわたって育まれてきた国です。そして何よりも、そこには平和を願い、希望を抱き、家族とともにより良い未来を築くことを望む何百万人もの人々が暮らしています。

2023年4月以降、武力紛争はスーダンを深く傷つけ、世界最大級の人道危機の一つを引き起こしました。何百万人もの人々が住み慣れた家を追われ、病院や学校、生活に欠かせない社会基盤は破壊され、あるいは機能を失いました。家族は引き裂かれ、生計を立てる手段を失い、食料、安全な飲み水、医療へのアクセスはますます困難になっています。国連によれば、現在、多くのスーダンの人々が人道支援に頼って生活しており、近隣諸国は暴力から逃れてきた多くの避難民を受け入れ続けています。

しかし、数字だけでは戦争の本当の代償を表すことはできません。その一つひとつの数字の背後には、学校に通えなくなった子ども、家族を守ろうと必死に努力する親、限られた医療資源の中で患者を救おうとする医師や医療従事者、そして長年暮らした故郷を離れざるを得なかった高齢者がいます。彼らは単なる紛争の犠牲者ではなく、夢や才能、そして未来への希望を持つ一人ひとりの人間なのです。

それでもなお、スーダンの人々のたくましさは私たちに希望を与えてくれます。国内各地や避難先の地域では、ボランティアが食料を配り、医療従事者は危険な環境の中でも患者を治療し、教師は子どもたちが学び続けられるよう工夫を重ね、人々は惜しみない思いやりをもって互いに支え合っています。こうした静かな勇気ある行動は、どれほど



暗い状況の中でも思いやりは失われないことを教えてください。

平和とは、単に戦争がない状態ではありません。それは、子どもたち

が再び学校へ通い、家族が安心して家を再建し、農民が土地を耕し、地域社会が尊厳をもって再び立ち上がることができる状態です。持続可能な平和を実現するためには、対話、人権の尊重、民間人の保護、そして国際人道法違反に対する責任の追及が欠かせません。真の平和は武力だけでは実現できず、信頼、和解、そして社会のすべての人々が主体的に参加することによって築かれるものです。

Network for No Warの皆様、そして平和的な解決を信じるすべての人々にとって、スーダンは平和を追求することの重要性を改めて思い起こさせる存在です。民間人の苦しみは戦争の避けられない結果として受け入れられてはなりません。人道支援の一つひとつの活動、連帯の行動、そして平和を求める一人ひとりの声が、想像を絶する困難の中で生きる人々の希望を支えています。

私はスーダン出身者として、戦争が人々の人生をどれほど大きく変えてしまうかを目の当たりにしてきました。同時に、祖国の人々のたくましさ、思いやり、そして困難に立ち向かう強い意志にも触れてきました。私は、スーダンの未来が紛争ではなく、人々の結束、豊かな文化、そして平和への共通の願いによって語られることを信じています。いつの日か世界が、スーダンを戦争ではなく、その人々の温かさや人間性によって記憶してくれることを心から願っています。そして私たち一人ひとりが、暴力ではなく対話を、無関心ではなく思いやりを、そして戦争ではなく平和を選び続けることを願っています。